

ワークショップ 6

「バイオマーカー研究とその臨床的応用」

司会 高山 哲治（徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学）

山田 岳史（日本医科大学消化器外科）

分子腫瘍学の飛躍的な進歩により、消化管疾患の診断・治療にも目を見張る進歩がもたらされた。ゲノム研究、omics 解析、リキッドバイオプシー等により悪性腫瘍や難治性疾患のメカニズムが次々と解明され、その一部はバイオマーカーとして治療成績の改善に寄与することが期待され、すでに一部で臨床応用されているものもある。本セッションでは、基礎から臨床に亘る幅広い領域から消化管疾患診断・治療に有用なバイオマーカーを紹介して頂きたい。